

全国コンテスト 4部門出場へ

玉野高校放送部が第64回全国高校放送コンテスト（25～27日・東京）に、過去最多の4部門の県代表として出場する。県予選で優勝した創作テレビドラマをはじめ、各部門ともテーマ設定、制作技法を工夫した力作や発表で挑む。生徒たちは「全員の手で勝ち取った出場権。取り組んできたことがどう評価されるか楽しみ」と、本番を心待ちにしている。（岡本遥加）



出場するのは創作テレビドラマのほか、校内放送研究発表表、ラジオドキュメント、テレビドキュメントの各部門。県予選には29校が出場し6月11日、就実高校（岡山市北区弓之町）で開催。校内放送研究発表表は準優勝、ラジオドキュメントが3位、テレビドキュメントも4位に入賞した。

優勝した創作テレビドラマの作品は「The ストーリーカー」。高校生にとっても人ごとではないストーリーカー行為の危険性を啓発する。ある女子生徒の学校生活に、ストーリーカーの目線で

全国高校放送コンテストに過去最多の4部門での出場が決まり、発声練習に励む玉野高校放送部員

ストーリーカー行為、少子化など題材 「評価楽しみ」

密着したとの想定。全ての映像を三脚を使わず手持ちカメラで撮影した。せりふを一言に抑えることで臨場感ある映像が際立ち、日常に潜む危険が伝わる。講評で「斬新な技法。テーマが伝わりやすい」とされた。

校内放送研究発表は「費用0円のスタジオ構築」。暗室に毛布や段ボールを貼り付けるなど、手作りの録音用スタジオが完成するまでの工夫を紹介した。

ラジオドキュメントは部員不足に悩む部活動の現状をリポートした「少子化と部活動」。テレビドキュメントは「うなぎ その果てしなき旅」。ウナギ研究の第一人者として知られる玉野高校OBの塚本勝巳・日本大生物資源科学部教授に取材した。少子化、環境保全といったテーマを、身近な事例や専門家の解説で分かりやすく作品化している。

玉野高校放送部の全国大会出場は5年連続。これまでは2016年の3部門が最多だった。部長の3年干原怜奈さん(17)は「案がまとまるまでに苦労した。決勝に進んで大勢の人に作品を見てもらいたい」。副部長の1年三木稚菜さん(15)は「他校の作品もよく見て勉強したい」と話している。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。